



千里同風



令和8(2026)年6月9日号

～合言葉は「や・は・た」～

猪名川町では6月を「いじめを考える月間」として位置づけ、各校でいじめについての取組を強化する活動を行います。まず松尾台小学校では、月初めの児童朝会の時間を生かして、「全校でいじめについて考える」機会にしました。1年生から6年生という学齢の幅を考えて、私から読み聞かせをしました。紹介した絵本は、「いじめ、みちゃった！」(和久田学・作/世界文化社)といいます。“(ぼくが)クラスの友だちが困っている様子を見かけてどうしたらいいか迷っていたが、「シンキングエラー＝まちがった考え(とらえ方)」について知り、「どんな理由があっても、だれであっても、いじめられていい人はいない」という考えを強く持ちます。見かけたときに勇気を出して声をかけることで、いやな思いをしていた子も、させていた子も、周りで見ていた子も、それぞれ自分のとらえ方に気づき、一人ひとりが楽しく笑っていられることを大切にしていこうの様子が描かれています。”という内容でした。

本の締めくくりに、いじめを防ぐ合言葉として、「や・は・た」が紹介されました。

- 「や」 いじめをしている子に「やめて」「やめたほうがいいよ」と伝えよう。
- 「は」 いじめられている子といっしょに「はなれよう」これは逃げているんじゃない。
- 「た」 いじめられている子といっしょに「たすけて」って言おう。友だちや大人に伝える。これは卑怯じゃない、必要なこと。

読み聞かせのあいだ静かに聞いている様子を見ながら、伝えたいこと、感じてほしいこと、いっしょに考えたいことが共有できる・・・「本」の力を改めてすごいなと思いました。また、お話の世界にすうっと入っていけるのは、きっとコロボックルさんに読み聞かせをしていただいているおかげだな、と思います。(ありがとうございます)

これまでの児童朝会では、全校児童に話をしていても、つつい私と1対1で会話しているように言葉が漏れてしまう子が、この日は一人もいませんでした。

話に登場する「友だちが・・・」「自分も・・・」とふだんの生活と聞いてくれていたのかもしれないですね。児童朝会の後、教室に戻って読み聞かせの感想や自分の生活を振り返る機会を作ってもらいました。これからの学校生活の中で、「や・は・た」の合言葉が誰かを助ける、誰かのSOSに気づくきっかけになることを願っています。今月は全学年でアンケート調査も行い、ここまでの学校生活を振り返るとともに、つらいことや悩みごとがないか、そのような友だちを見かけたことがないかを知る機会も予定しています。

そして、私たち大人も子どもたちにとって相談できる信頼関係を築き、見守りの感度を上げてSOSにすばやく気づくように努めていきたいと思っています。ご家庭でもお子様の様子を見られていつもの様子と違うなあとと思われる時には、少し時間を作って話を聞いてあげてください。見ている、聞いてくれることで、子どもの安心は増えます。よろしくお願いいたします。

～梅雨入りしました～

気象庁は6月4日、平年より2日早く近畿地方が「梅雨入り」したとみられると発表しました。昨年よりも18日遅い発表だとか。年々早くなっている感がありましたが、地球規模で見れば大気の動きの影響を受けて変わるのですね。不快感や熱中症のリスクが高まってくるのは気温の上昇とともに湿度が70%を超えてくる状態のようですが、今のところ晴れた日は湿度も低く過ごしやすそうです。休み時間も元気に外遊びする子どもたちが目立ちますが、いつまで続いてくれるでしょうか・・・天気予報から目を離せませんね。

服装や水筒、雨の日の準備もたいへんかと思いますが、ご協力をお願いいたします。

運動会も終わったばかりですが、今週からプールが始まります。今年もB&G海洋センターにお世話になります。各学年3回のプールになりますが、ゆっくり水に慣れたり、しっかり泳力をつけたり、個々の力を伸ばす機会にしてほしいと思います。

プールの日は、終了後「阿古谷、原、内馬場方面」はB&Gから、「サウンズヒル方面」「松尾台方面」「伏見台方面」は駅前から分かれて下校になります。今年も見守りボランティアのみなさんにもご協力いただきます。よろしくお願いいたします。

～睡蓮(すいれん)の花は今も～

運動会前に学校ホームページでも紹介しましたが、中庭のビオトープの睡蓮の花がきれいに咲いています。調べてみると睡蓮の花の開花時期は長く5～9月だそうです。隣の水槽には蓮(はす)も育ててもらっていますが、蓮の花が咲くのは7～8月だそうです。水に浮かぶように咲く睡蓮と、すっと背を伸ばして咲く蓮の花が同時に見られる時期もあると思うと楽しみもふくらみます♪



～黒南風(くろはえ)・荒南風(あらはえ)・白南風(しろはえ)～

梅雨入りして、どんよりと黒い雨雲の下で吹く南風を「黒南風(くろはえ)」といいます。色のイメージからは力強く感じる人もいますが、南からやわらかく吹いてきます。その梅雨の南風が、時おり吹きすさんで強風になると「荒南風(あらはえ)」と名前を変えます。海岸沿いでは高潮を招く梅雨の厄介者です。もともとは漁師の間で生まれた言葉(表現)だといわれています。風と密接なくらしの中で季節の移り変わりを見事に表現しているなあと感動します。波風と向き合う漁師さんの姿が目浮かぶようです。

そして、いつしか雨雲を吹き払い、梅雨明けを運んでくる清々しい南風を「白南風(しろはえ)」と呼び、夏の到来を告げる風とされています。雨も時と場所によって必要ですが、天気予報をこまめに見ながら、「白南風」の知らせ(梅雨明け)を待ちたいと思います。